

●山に囲まれ気象安定

都城市がスカイスポーツの町として、その名を全国に広めている。毎年十一月に開く「スカイフェスタ in 都城（スカイプロッサム）」には九州を中心に多くのファンが集まり、今では地域活性化の切り札ともなっている。

同市がスカイスポーツの町づくりに乗り出したのは一九八〇年代後半。都城盆地は霧島山系、鰐塚（わかづか）山地に囲まれ、気象が安定、飛行の障害となる高圧線が少なく、航空路からも離れている。それに何よりも展望が素晴らし。大淀川の広い河川敷もあり、着地点が確保しやすいなど、スカイスポーツの条件をすべて満たしていた。

恵まれた資源を観光浮揚に生かそうと、市が大淀川河川敷に滑走路を造るなど条件整備に取り組んだ。現在、基地は二つ。同市上水流町の大淀川河川敷と安久町の金御（かねみ）岳。

大淀川河川敷で開いているのが「スカイフェスタ in 都城（スカイプロッサム）」。第一回が八九（平成元）年。以来毎年開催（昨年が十五回、八九年は二回実施）、空飛ぶボートと呼ばれるポラリスをはじめ、マイクロライトプレーン、モーターパラグライダー、ラジコン航空機などのデモフライト、小型飛行機の曲芸飛行などを繰り広げる。祭りは二日間で、熱気球の体験搭乘、紙飛行機競技大会など多彩なプログラムが組まれている。

毎回、曲芸飛行の第一人者が出場、今では全国でも有数の「空の祭典」として認められるまでになった。県内外から大勢の観客が訪れ、華麗な技に酔っている。

金御岳を基地とするのがハンググライダー。標高四七二メートルの金御岳は秋から春の間、霧島連山からの風が上昇気流となって吹き上げ、空中



曲芸飛行などが繰り広げられる空の祭典。華麗な技に観客からも歓声

遊泳には最適の条件となる。市が八八（昭和六十三）年、頂上に離陸台を設置、着陸地点の畑も地元から借りてハンググライダー基地とした。都城盆地を眼下に、霧島、桜島を見ながらの飛行はそう快。ときには桜島の噴火も目にすることができる。ここでは毎年、県内をはじめ大分、熊本、鹿児島などから選手が参加、南九州大会が開かれている。金御岳はサンバ観察の絶好のポイントとしても知られ、頂上には休憩所「サンバの館」もある。初日の出、夜景、雲海など頂上からは一年を通して展望が楽しめる。

スカイスポーツの町として空に向かって飛び出した都城市。視界は良好である。

南村正明